

特 67

405

中  
和  
の  
夢

初  
編

062150-000-8

特67-405

中和の夢 初編

熊倉 雄 / 述

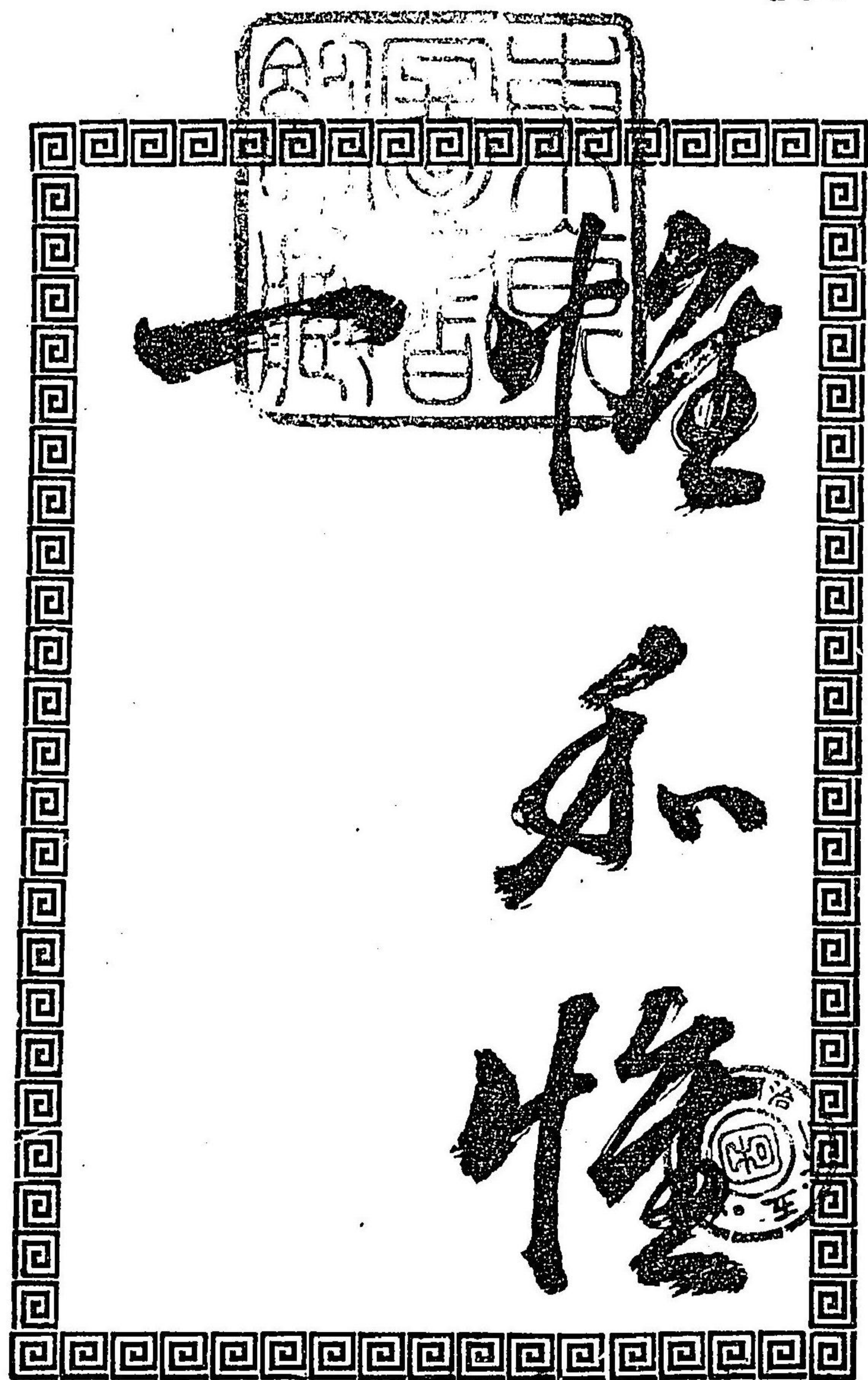
M26

CCA-0939



特 67

405



五 四 三 二 一

六つんさるる赤赤

た東少掬もろやみお

散久中ちうらも

まかえ取ふゆるも西

中和園主人記

夢の一

◎ 中和のゆめ

熊倉雄述

天地ありて萬物ありて人あり而して人れ道の衣食足されば以て世も立つべからざるは是天理然しむる處あり我川東村の物産の最良ある蠶を養ふ事久しかりとぬへとも其業は擴張するの易からざるを憂ひ菊部豊一氏の川東養蠶場と設立す此業たるや天然れ氣候も隨ひて成るもれなれとも寒死日よ火力を假りて温度を増し暑死日よ戸を開きて清涼あらしめ日々飼養する處の量も據り其宜しきを取りて温氣を和し能く飼養するとの遂るを得因て名づけて中和園と稱しより故も人さるもれり蠶兒を飼育せんとせば中味の道も心と盡すべし夫れ

國家の本たる農業上は改良と志ざし節儉を主として克讓  
 ると言ふと勤先一家財産の所得を量り之れを二分して永  
 遠不易の法度を定め其一ツを蓄積するものとして其一ツ  
 を年度總ての經費と充て毫も分限を越る事勿らしむべし  
 是中和園の目的あり此中和園の目的を贊するも其の方正  
 の心と完ふして邪曲を觸れし先を能く分限を守り蓄積す  
 る處の財産の子孫を垂貽せざるべからば一家の道の立  
 る後の一村一郡一國漸次推擴せざんばあるべからば  
 學而時之れを習ひて亦説ばしかば或や此章能く知るべ  
 し古語を子生れて能く食す教ふるも右の手を以つてす能く  
 言は、男女六歳として小學校を出し唯數と方との名を教  
 へ男女席を同じくせせ共食せせ席をつく時必ふ長  
 者も後るべからばの譲りともふ事と教ゆるとは誠と至れり

其二

と思ふるも又小學校の教科を治めらば高等小學校に入る  
 べし十五歳に至らば農家と農と就商家の商と就くしむ  
 るの道を教ふるものなと學問と志ざし修るものと大學校と  
 入と能く學びて人の摸範となるものもいと頼母しけれ今の俗  
 儒の如く人の説杯を持切として時々之れを習へば學ぶ所  
 のものも熟して悦ばしへぬ樂しましへぬとまと絲の上の  
 咄しのまよて社會と活用を成さぬ者也夫れ農家の米を  
 取るに稲の刈る先に能く穂を撰と能く乾あして種粃  
 とあし俵に入るべし餘り暖くなる處杯に仕舞置べうら  
 せ愛子を育つるう如く順序を認らせ教育を成さる時の身  
 を衰ぼすに至る事あるものなと四季に亘りて成熟する者  
 の四季の氣候に逢するともふとか肝要であらざる寒中に  
 の氷水を用ひて水撰となし不熟の粃を去り而して元の如

く寒氣の通ふ處も置と最も善しとす之に反し寒うらんど  
思ひ暖ある處や桶の中杯に入置て寒氣を養ふといふ  
一ツが欠くるのさるる暖氣におあされて萌芽の支度を  
あす者なれば折角粉が庭に於て修行しさる水撰も水泡  
に屬すべし注意を成させんがあるべからざる也翌春に至  
りて再度水も入れ芽も出さしめて苗代に蒔根を仰して田  
に移して耕耘と成す事の時を以て之を習ひす又あらせ  
や秋に至りて米を取入なれば悦ばしきとならせや農に志ざ  
しゆる友も遠方より來らば樂しきとにあらせや農業の道  
の互に譲り互に益して悦びをなすものなれば萬事此道に  
據るべし書を讀むの人農を餞しと思ふべからせ伊尹とい  
へる人の有莘の野に耕して堯舜の道を樂きて不仁者の遠  
しとありなれば人さるものなれば能く學びて中哀の道に心を

盡し能く業を勉めて徒つらに光陰を送ると勿れ

某日尋常小學大藏校の始業式に列なれ予も一言せん夫れ  
道なるものなれば習ひすして明らかなるにあらざれば  
誠の道と云べあらざるなり故に仰て天と觀俯して地を  
觀る言をそして四時行なれ百物なる處の不書不言の教に  
よらざれば萬古不易の道とい言ふべあらせ我國の學者の  
兎角支那風に流れ書籍を講し詩文杯作れるを名とし今日  
の用に足らざるも願ひて天狗藝術も出來得るやうな心地  
して遠地近地鼻とつき終りに家産を敗れるもの勝て計ふ  
べうらせ能々是を考ふれば文部大臣の小學令の改正する  
毎に學科の程度を底充て修身の道を弘充らるゝの尤も宜  
しきとさかもふあり何となれば字の物のふてうなれり餘  
り面倒なる字の覺えすともかな書よても足るゝものなれば

の一般の學齡兒童の就學するを肝要なり因て父兄さるもの父兄さるの義務を盡し日月のかわるくもて、萬物を育て給ふ處の道も基き子供をそたて學校へ出して教科を治めさせ能く家業に勤勉するを人道とい言なり古人云ひるあり人の道は天地に隨ひて私欲を去り天地に遊んで田畑の草を採るへしとい之れ中和の道とこそいふなり蚕の業も從事する久しし桑園も年々増歩せしめ繭の算額も凡そ一千貫目も至りしか歳々經濟も不足を生するなり如何ある法を求むれば利益を得るゝやと問ふ人あり夫れ本固ければ國安しといひるとあり一家を一ツの小世界と見做して教ゆるなり一家財産と繭より得る處の取上金五ヶ年或は七ヶ年の平均を積算し其金高の内より貢租諸費を引去り全く所得となるへき金貳百圓はるゝ百圓の

其四

己れのものとなさずして是れを蓄積するものとなし殘る百圓もて暮すへし是世界の分らざる始め二ツも分れ一ツの天となり一ツの地となるの法にして日輪の能く照して息ます地球の萬物と載せて重しとせす能く生育する者あるに此道に基き節儉を主として家業を勵むべし物盛なれば衰へ滿れぬ欠くる是天理の然らざる處なれば蓄積の道を計らずして百圓取りては百圓支へ貳百圓取ては貳百圓支ふとき幾百圓取ても同じきとよして分限を去らざるものと言ふさるへかす富も貧も限りあふされぬ二一天作の五といひる九々を能く覺えては天の分度をして我り分度となすとき如何なる貧者も立さるなし如何なる國も興さるなし人さるもの推讓の道を勤めすべからるべからる

老農岩村金作といひる人有りある夜彼と我と相語る天の時  
 の地の理も如かき地の理の人の和も如かきと古人の云ひし  
 如く農家も天時を違へて能く照し給ひても地の理も如かき  
 とて用水取入るゝともなふき悪水の捨る道もなし又人の和  
 とて用水捨水の道ありても江浚もなさを江九か崩れても修繕  
 を怠り畦畔の漏るゝも構はずして田地の稲を植ぬ畑地も豆を  
 蒔けの實のなるものと心得居る大ある間違なり人さるもの  
 の大陽の環るか如く朝の早く起きて草鞋を作り雪の遅く寐て  
 繩をなへ晝の早く立て深く耕し耘さる豆や粟の根より呼吸  
 する處の空氣といふものを能く養へまむるの工夫をあすへし  
 岩村老農の歌よ

天地の深き恵みのありけるを知らてや民のくらまけふかな  
 と讀し百姓日々用ひて知らば故に君子の道鮮るしと

いひる語に叶ひりこの歌の心と考へて肥を作らんとねも  
 は山野に入りて草を刈り庭を掃きての塵をを集つめ道路の  
 草鞋や馬糞に至るまで心と付堆肥となし是を田畑に撒布する  
 時の大陽の温氣を土中に通り能味らかまめて作物の根を太らし  
 びへし根のふとるに隨ひて枝葉の伸るものなれり求めずして  
 花咲實結秋に至りて多く收穫のあるものなり此大陽の温氣の  
 根を養ふといふとを知らせし日照りか足らぬ雨かはしひぬと  
 折角待受し日照りや雨の來さるし時に皆枯るゝものなり人も  
 此道理にて本を勤めずして美着美服を求めんと欲する時の漸く  
 至りて身代限りの處分か來るものなり農家さるものへ能く學ひて  
 本と養ふといふとを勤め以て誠の道を明かにせむんばある  
 へからせ

其六

熊倉某の常に發句杯誼しとありて予に語りける去年も今年となり今年もまた去年となる流るゝ水の堰どむへくも我行年のとむむるとの出來ざるを

夢の夜も去年とやなむぬ今朝の春とよとなから逝くもの斯の如き晝夜をすてせといひるを忘れ碁將碁など玩そひしその因果の報か今來れり後悔先に立ざるの金言なれども千變萬化の世界なればとて

世の憂さをかなしきものどれもひしに

樂しきことの種とやなるらむ

とよみし先夢後樂古人の心といふ語に叶ひ面白かりけれ然りといへとも言行の君子の樞機とよの發の榮辱の主と古人もいま先置れし事なれり自から讀し歌の心を失はす庭にある梅の如く寒さをれかして花を開き實を結び

其七

風も吹れ雨に濡れつゝ芽を伸し葉を茂けり暑さに向ひて能く熱せんとあるべからざるなり寒しとて戸を開ち風雨をいとふて服と炎り暑さもいやとて木陰へ廻りあそ枝葉の茂さるのよならそ實と結びても熟する事能くを半途として落るものあり何事も天地も随ふ時の榮之逆ふ時の亡ふ慎めや

ある日若きもの遊ひけるを見る手前等も歌を教へん耳の掃除を去られよ色匂へどちりぬるを我世たれを常あらむと讀ければ一人り立て是は歌もゆふそいろはなれと習をそとも知りし事なりア、爾かやうなるものかある故も能く耳の垢を取れといひしなり雄か事とつも啼く鳥とは思えて能く聞かよるし家業を怠り酒を呑み賭事をなし或いつまふなき社會の嘶し迷ひ居る中も親となり祖父となる事



とつていろはにはへとちりぬるをわかよたれそつねならむと讀し言葉なり  
佛家の四句の門とて旗よ書せる語の諸行無常といいろと  
にはへとちりぬるを是生滅法とわかよたれそつねなら  
む生滅々已とちりぬるのたぐやまけふまぬて叔滅爲樂とと  
あさきゆめみゝるひもせずといひるも古歌よへ花の色に移り  
にたりないつらに我身世に陥るなり免せしまにと讀しも春の來て苗代  
よ初蒔と稻か生へ田よ移り耘きり花咲實のり刈採りて元  
の初となるといふよ同じき事なれと人の稻の實法るか如  
く温味あると善いとと温和あるよされと能く實のよそ實の  
よされは屈むる能とさるものなり書を學とんと欲するも  
のよ本の片端をも讀ばとて天道も人道も丸呑よして我程  
のものよなしとたれもよなかれ世の中の道理よ明よかなれ  
の今讀みしいろはよても萬事に通るものなり万巻之書

廿八

を讀ても天地の道理よ暗々れと讀さる人よ劣るべし  
某處網を製しけるを見る此網よ用ひて蚕沙を除く時人  
夫を省くのをなよと蚕兒と健やかなよまむるものなり其  
器械車の如く仕掛をなしくるよと編仕舞手きよもよく  
且つ掛どり調法なる工夫なり此通り心配それ何事もな  
らざるなし家業を勤むべしと諭しけれ人への神通力と  
いふものあり深山幽谷に入りて心よこむる時悟りの道  
にも達よべし釋尊其他の祖師皆よれに因れりといふもの  
ありは何の縁を喜善かそれの別なるものにてはなく人  
として神通力なよざるなし然れとも其體格に因りて勉強  
の届くと届かざるよ智腦の働らくと働よかざるよにあり  
又其人ありといへとも位なく徳なけれの行のれざる者な  
り何事も一ツの和合といふものか欠てはならぬものなり

笙や笛などを見よ其形ちの出来やうによりて音聲のかま  
るものなり音聲正しからざれ用ゆる事能はざるものな  
り此道理を能くく考ひてまよふ事勿うれ  
ある日某へ此夢つゝの机の上に在し時一覽を乞ふとて  
送りけるに新聞記事の如き文をつゝて淺學の我なれり  
夢の文意か悟られぬとて歌に

をくられし文の道たは暗ければ

月を待てやたどり行らむ

とよみしん感心の事ならそや予か夢つゝの高尚なる文  
や面となる字をはぶたて讀さへそれの分る所の言葉をう  
なよつゝし者なれり新聞讀や書物讀のさて置て實業社  
會の讀さる人によまそる夢の道なれり分らそといふ事な  
し燈臺下暗しとて何事も餘り高尚なる心を持て見る時

已れの心に暗まざるゝとあるものなり古語に千言を聞え  
て一言を取れといひるとあり隣りの權助か言ひまゝにて  
も百にも一ッ善言ある時の捨るへからそ天道の人道の中  
和の推讓のと古言とならへ見るにも足らぬと捨置人の多  
かりける予か天地といひる處のむつかしき物にてはなく  
仰ふぎて觀れり日と月と星とあり俯して觀れり雨や風露  
や霜あり日と月のかまるといひて、能く萬物を照らし春  
の花咲き夏の蜻蛉か生れいて、秋の紅葉に冬の雪降る我  
踏處の地球の物を載せて重まよせそ能く生育する實際に  
就て學へる處の道なれり昔より梅のう先櫻のさくらなり  
何よもかまりし事のあふざれども世にれし移り政去どり  
古しの如く天王の自かま執ふるゝ所とありしゝるの越の國  
よも新潟新聞自由新聞東北日報といひる政黨の機關新聞

とやうに出来て新潟新聞見るもの改進黨自由新聞見るもの自由派東北日報見る者の國權派ありとて政黨の何物さるよも係り少す各見る處の新聞も傾むき競争の有さまありける適近我の不偏不黨ありとて新聞を見て居る人のありしも農家のしらすく我の遣ふ鋏の先の減る如く右の腕も力を入るゝもの右の角も減り左の腕も力を入るゝ者の左の角も減るあり已れか力の平らるゝさるをも顧みせ鋼ねの廻り悪しへの職工の下手ぬと能く罵しり居るものあり今の新聞をよめる人も是も異る少す夫れ大工の盤を据んとする時の定木のみわて透きあしとて平ありとし曲尺のみわて直ありとあさの眞の平直よのあふさるあり正平を求めんとする時の水を盛るべし正直を求めんとする時の繩を提るべし天文學者の曆を作れるも

其十

九々の外よの術あふさるあり人さるの道を正しくせんと欲するもの天照大神の豊芦原瑞穂の國を安國と平ふけ給ひし處の敬神愛國の道よ心を盡し能く天地の道理を明かにせすんば誠の道よ至るべかす至誠の神の如しとありけれの心を正しくし意を誠として能く國家をおもふ人よそ人さるの人といえさるべらふせ  
伊藤某を訪ふある人言ひるあり地獄も極樂も佛家口癖の説教よて耳馴れし事あるか神道の高天原と云ひるの何れの處なぞしや蒼々さるの天の正色あり高うす底のさす中天よもあふさりしやと尋ねけるよぞある夜高天原の咄して酒を呑みし事あり予の寐言よ高天原響きよさりし鈴の音の氷るもしくして盃の面白うれのそゝるよも寒さを可すれ歸りよの起つまるびつ雪達摩袖に包ましそのまゝに

いさき寐れりやめてまゝ解けて跡あしそよ故に汲みて置  
さる盃を呑みて語りし高天原尋ねつくすも何故予神うあ  
うらばふとあるまし

高天原通ふころのなかりせは

逢ふてわかるゝことなからまじ

とよめり此歌の心を考ひしるべし中天とい何れを中天と  
して宜しきやまれも分らさりし事あり天地渾沌味して止  
ざる是を中天と云えさらんや上天の職の聲もなく臭もな  
き至れるうなまの處まそ高天原といひるなり故に人の  
道り中正ならされり神も佛もましまさす中和ならされり  
子孫も榮ふ能はず何れの業もならざるものなり慎ますん  
りあるべうらそ

○

まの夢つゝりり予か淺學あれば文のつゝなき假名や言  
葉の愆れるをも顧みずゝ天道にしゝあひて人の道を  
つとめしめんことを旨とし世の中にいろはよみのいろ  
はしらすや論語よみの論語まゝ老のなきやういゝしゝ  
しとおもひつゝり初よし夢あればおかしくバ目ふひよ  
ろしくバほめよくまどまそは言はれゝくなしと思ふな  
りまの夢くゝを助くる人あそゝのもしけれ

正誤

四枚裏	三枚裏	三枚裏	二枚裏	枚數
二行	十三行	十一行	九行	行數
せん	中哀	餓し	んせ	誤植
せり	中表	賤し	んそ	正誤
八枚裏	六枚裏	六枚裏	四枚裏	枚數
十行	六行	六行	七行	行數
面到	將基	實結	算額	誤植
面倒	將基	實法	産額	正誤

明治廿六年四月廿日印刷  
全年全月廿一日出版

編輯兼  
發行者

熊倉勤太郎

新潟縣越後國中蒲原郡川  
東村大字猿和田第九番戸

印刷者 坂爪虎三郎

全縣全國全郡新津町大字  
新津第百五十一番戸

〔非賣品〕

